



話し言葉の障害とリハビリに関する研究

保健福祉学部 コミュニケーション障害学科
教授 小澤 由嗣 (おざわ よしあき)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4432 号室
Tel 0848-60-1120 Fax 0848-60-1134

専門分野： 言語聴覚障害学

キーワード： 発音, 構音障害, 発話障害, dysarthria, リハビリテーション, 小脳疾患

● 現在の研究について

- 脳血管障害、神経変性疾患（パーキンソン病、小脳変性症ほか）が原因で、話し言葉が不明瞭、不自然になったり、さらに言葉を思い出したり、表現することが難しくなる場合があります。こうした症状の検査法、リハビリテーションの方法について研究しています。
- 現在は、特に小脳系の疾患に起因する話し言葉の困難を中心に、運動障害の性質の解析、発話明瞭度を改善するための働きかけについて研究を進めています。
- また近年、小脳を含む神経系の障害では、運動障害だけでなく、言語・認知機能にも障害が出現する可能性が指摘されるようになりました。言語機能と、言語機能を支える認知機能の障害の性質を、行動面の分析および脳機能画像法（ファンクショナル MRI）や光トポグラフィーのような生理学的方法を用いて分析しています。

● 今後進めていきたい研究について

- ① 話し言葉の症状と、その背後にある運動障害の性質の解明をすすめ、適切な臨床的検査法を検討します。
具体的には、発話器官の連続運動時の動態

を動作解析、音響分析の手法を用いて分析し、運動の問題が起こるメカニズムを調べています。また、言葉の明瞭さの低下の原因となっている個々の発音の誤りの特徴を簡便に調べる検査法を試作しました。

- ② リハビリテーション・支援における妥当な目標設定の基準や、最大限の効果を得るための方略を検討し、話し言葉のリハビリテーションを実施する際のガイドラインの確立に役立てていきます。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

- ① 発音の困難を感じておられる方（小児・成人）や、家族、関係者の方には、附属診療所等を通して、直接、相談をお受けしたり、必要に応じてリハビリのお手伝いをしています。
- ② 医療福祉施設、学校などの専門職の方とも利用者の方々の困難の支援に向けて、連携させて頂ければと思います。

● これまでの連携実績

- 言語障害通級学級担当者研修
- 福祉施設専門スタッフへの助言
- 看護研究支援
- 検査・訓練装置開発に関する共同研究 など